



ロータリー:
変化をもたらす

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報



THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 向後 保雄 ■幹事■ 水野 浩利 ■会報委員長■ 酒井 秀大
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2017-18年度

第2605回

平成29年10月13日(金)点鐘12:30 《雨》

- ◆ロータリーソング『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◇本日のゲストスピーカー
シンガポール協会 前会長 鈴木 貞男様
◇ひかり学園 園長 武藤 直樹様

◆会長報告 向後 保雄会長

①本日の指名委員会において、2018-19年度の副会長候補に、廻辰一郎会員を指名しました。東京オリパラのある2020-21年度の会長となる予定です。

②本日は、ひかり学園・武藤園長にお越しいただいております。今年もいつものようにお米と野菜をたくさん注文できればと思いますので、ご協力下さいますようよろしくお願いいたします。

③本日、10時から、千葉常胤公ものがたり(漫画本)2250冊と紙芝居111部を教育委員会に寄贈し、寄贈式典が開催されました。会長、幹事、小林直前会長、植松会員、伊藤会員、酒井社会奉仕委員長(チームリーダー)で、千葉氏プロジェクトチーム・6名で行って参りました。本日の18時と21時半の2回に分けて、千葉テレビ放送でニュースとして放送されます。後日、千葉日報にも写真入りの記事が出る予定です。小学校10校で紙芝居を演じるという事業計画をしていますので、多くの会員の皆様にご参加いただいて、千葉常胤公物語の子供への教育に対するご協力をよろしくお願いいたします。

実施の日程等については、これから詰めていきます。

◆ご挨拶

ひかり学園 園長 武藤 直樹様
いつもひかり学園にご協力いただきましてありがとうございます

ございます。今年も収穫できそうですので、ご協力よろしく
お願いいたします。

ひかり学園チャリティーバザーへのご協力もよろしく
願います。事業内容についてのご案内も是非ご覧下
さい。

◆委員会報告

◇社会奉仕委員会より (酒井秀大委員長)

①本日はひかり学園武藤園長がいらしています。野菜と
お米の注文申込みをお願いします。ひかり学園への支
援を継続していますので、今年もよろしくお願いいたします。
バザーへの物品提供についてもパンフレットを作って呼
びかけますので、よろしくお願いいたします。

②千葉氏プロジェクト・紙芝居について

司会・補助等、紙芝居の読み手、甲冑を着る人の3人
1チームで小学校を10校回ります(3×10=30人)。
できるだけ多くの会員のご協力をお願いします。読み手
については、10月13日と18日の午後6時から、オークラ
千葉ホテル会議室での練習に参加をお願いします。

◇親睦活動委員会より (廻 辰一郎委員)

来週20(金)・21日(土)は、「米山梅吉記念館訪問及
び親睦旅行」です。よろしくお願いいたします。

◇会員増強委員会より (伊藤 和夫委員長)

4グループで活動しています。皆様、ご協力お願いい
たします。

◆幹事報告 水野 浩利幹事

本日はございません。

◆ニコニコボックス報告

《 向後 保雄会長・水野 浩利幹事 》

本日のお客様は、一般社団法人日本シンガポール協
会顧問で前会長の鈴木貞男様です。「驚異の経済発展
の国シンガポール」という題目で卓話をして下さいます。
どうぞよろしくお願いいたします。

《植松 省自会員》

本日は、私の学生時代からの友人の鈴木貞男さんに
卓話をお願いしました。貞男君、宜しくお願い致します。

本日のニコニコボックス	4,000円	累計	110,000円
金の箱	2,000円	累計	5,606円

◆出席報告 (会員数48名)

出席者数	欠席者数	ビジター	9/29 修正出席率
28名	20名	2名	70.83 %

千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#) [キャップ](#) [にご利用下さい。](#)

千葉RC	月	10/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センシティブワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	10/24	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	10/25	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/26	京成ホテルミラマーレ

1819年にイギリス東インド会社のトーマス・スタンフォード・ラッフルズが後のシンガポールに上陸したことから始まります。現在は外国人も含めて560万人強の人口ですが、当時は150人から200人程度の漁村であったと言われています。イギリスはマレー半島南端のジョホール王国からシンガポールを買収し1824年、当時東南アジアで覇権を競っていたイギリス、オランダによる英蘭条約の締結により、シンガポールは正式にイギリスの領土になりました。

➡ (多民族国家の形成)

以降、後背地のマレー半島のゴム、錫などの積み出し港として、また海上交通の要所ということで発展してきました。19世紀半ばから中国南部からの大量移住などによって、現在の多民族国家の原型が出来上がってきました。

➡ (歴史に登場する日本)

こうして徐々に発展してきたシンガポールでしたが、ここから日本がその歴史に登場します。太平洋戦争は1941年12月8日に始まりましたが、翌年の2月7日シンガポールに攻め入りました。2月15日にイギリス軍が降伏し、日本は終戦の1945年8月までの3年半の間、シンガポールを湘南島と名前を変えて占領しました。

大変悲しいことですが、占領後すぐに相当数の華人の粛清を行いました。その対象は中国共産党に関連する人たち、抗日団体に所属する人たちなどが主だったと言われていますが、実際にはかなりいい加減な選別が行われていたようです。シンガポールの歴史のお話をするとき、この話は避けて通れない重い事実で、戦争がなせる業とも言えるでしょうが大変残念なことです。

戦後、日本は単なる戦争賠償に加え、市民を殺害した血の債務、血債に対する賠償を行えと、大きな問題になりました。

結局、血債問題も含めて1967年にすべて解決しました。それ以前に「市民戦死者記念塔—Civilian War Memorial—血債の塔とも言われる」の建設の際、リー・クアンユー首相のスピーチを要約し「許す、だが忘れない」と言ったとされ、シンガポールが日本を受け入れてきた基本になったと解釈されています。実際には、シンガポールが独立後、外国企業の誘致に力を入れ、日本からも多くの企業が誘致に応じて進出し、シンガポールの経済発展に大きく貢献した事実がありました。こうして日本を受け入れ、日本に学ぶという政策を採ってきたことが、「許す、だが忘れない」と要約された言葉についても、日本とのあの歴史の暗黒のページを事実上閉じる大きな原動力になったと思います。現在シンガポールは

本日の卓話

演 題⇒「驚異の経済発展国シンガポール」
卓話者⇒ シンガポール協会
前会長 鈴木 貞男様

➡ (主要指標)

シンガポールの特徴を示す指標があります。経済規模を示す一人当たりの名目GDPは世界10位、アジアでは2位です(1位はマカオ)。その他、空港ランキング、ICT(情報通信)活用度、ビジネス環境、国際競争力でも世界で1, 2位という高い評価を得ています。大学ランキングでも世界22位、アジアでは1位にランクされています。

要するに経済はもちろんのこと、その他多くの点で小さい国なのにすごいパフォーマンスを示している国ということがお分かりいただけると思います。

➡ (基本情報)

GDP構成比で二次産業が約30%、三次産業が約70%。一次産業(農業・水産)の比率が0.00%とまるで一次産業はないことのように見えますが、全くのゼロではありません。小数点以下一桁にも出て来ないほどの比率だということです。

➡ (シンガポールの歴史・概要)

では歴史からスタートします。



大変な親日国になっていると言えます。

➡ (シンガポールの歴史・戦後の独立への道のり)

歴史の本筋に戻ります。

戦後再びイギリスの植民地に戻りましたが、独立運動の高まりなどがあり、1959年(s.34)イギリスの自治領になりました。この時当時36歳のリー・クアンユー青年が人民行動党を率いて第1党になり首相に就任しました。1963年(s.38)、既に独立していた隣国のマラヤ連邦と一緒に、マレーシアを結成、この時にシンガポールはイギリスから独立を果たしました。

しかし、マレー人優遇政策を進める中央政府と、平等政策を求めるシンガポールは対立し、64年にシンガポールで人種暴動が2回も起こるなど、混乱を極めました。ついに2年後の1965年8月9日、マレーシアからシンガポールは追放され、独立ということになりました。決して望んで独立した訳ではなく、仕方なく独立せざるを得ない形となりました。

当時のシンガポールとマレーシアの基礎指標の一部を見てみましょう。

➡ (シンガポールの歴史・独立時と以降のSとMの基礎指標)

経済的には当時でも比較的発展していたシンガポールですが、それでも経済規模を示すGDPにおいても3分の1程度、人口は20%程度、面積は1%にも満たない状況でした。格別秀でた産業がある訳でもなく、独立するからには自前の軍備も必要で、果たして国として生存できるのか、先行きに不安だらけでした。しかし、この小さな国が1990年にはかなりマレーシアに接近し、2000年には追い越しています。

この表で注目すべきは、マレーシアとシンガポールの人種比率です。

これが今でもシンガポールを語る際の大きなポイントです。

独立当時と現在でも人種比率に大きな変化はありません。つまりシンガポールは華人系が圧倒的に多く、マレーシアではマレー人系が圧倒的に多い、という事実です。何故対立が大きくなったのか。当時マレーシア中央政府とシンガポールが対立した人種比率がその背景にあった訳です。

➡ 【独立後の政策・経済政策】

輸入代替工業化から輸出志向工業化へ大きく舵を切ったことが特色です。これが驚異の経済発展の基本になりました。シンガポールはその成り立ちから資本や経営者、技術などを外国から導入することに何の抵抗もなかったと、後年リー・クアンユー回顧録で述べています。

➡ 【発展を支えた要因】

発展を支えた要因、政策にはどんなものがあつたでしょうか。

まず国民に「汚職を決してしない」との宣言したことです。国民から大きな支持を集めました。このために公務員の給与を高く設定するなど、現実的な政策を打ち出しました。

こうした宣言を行った後、計画的に社会基盤の整備に力を入れました。

①1970年に総合的都市計画のコンセプトプランを策定しました。

この時既に現在のインフラの位置、高速道路・空港・港湾・地下鉄など、を決めています。現在のインフラはその当時の計画に沿って存在。

②次に水資源の確保:海水淡水化、再生水(NEWater)などに力を入れた。

③自家用車台数規制:狭い国土に車が溢れて都市の機能がマヒすることを抑えました。台数をコントロールするため、車の購入権がなければ、車を持ってないことにしました。この購入権に加えて車の値段プラス100%の関税ということになりますので、支払いには車両価格の3倍から5倍になることもあります。

➡ さらに埋立てによる国土拡張に力を入れました。シンガポールのガイドブックに、未だに「シンガポールの大きさは淡路島程度」「東京23区程度」と書かれていることが多いですが大きな間違いです。建国時よりも23.7%も領土は拡大しています。

日本に当てはめると優に北海道分を超える領土の拡大で、争いもなしにこれほど領土を拡大した例は稀有なことと言えます。

➡ 次にガーデン・シティについてです

リークアンユー首相は、首相就任後一つの目標を立てた、と回顧録に記しています。それはごみのない清潔な都市、シンガポールを美しいガーデン・シティに変えることでした。

彼はその時を回顧してこうも言ってます。「**国民の悪い習慣を改める**。国民の意識を高めるため、ごみを捨てた人に多額の罰金を課すなどの政策を打ち出した」と。そこでゴミのポイ捨てに始まるいろいろな罰金制度ができました。➡ 罰金制度への批判についてリー・クアンユー元首相はこう言っています。「**高層ビル生活も含む新生活が始まったが、ビルの窓から、ものを投げ捨てる人にどう対処すればいいのだろうか。下の路上を歩いている人を殺傷しかねない問題だ**」

いくら首相であっても「国民の悪い習慣を改める」などと言いきれるというのはすごいことですが、国民も言われても仕方がないと思ったことでしょう。このページにも書きましたが、美しいを意味するファインと、罰金のファインをかけて、Singapore, the fine city とからかわれるもとにもなっています。

この一連の罰金の例などは、シンガポールは「おかしな国だ」というような扱いで書かれることが多いのですが、本当の意味はそんなことではなくて、街をきれいにすることにより国際競争力を高めて外国企業の誘致を容易にし、また観光立国にするためにも必要な社会基盤の整備だったと言えるものです。

➡ 【税制】税率が低い――所得税 17%など

外国からの進出企業への優遇税制に加え、一般的に税率が低いのが特徴です。**その他、相続税なし、キャピタル・ゲインへの課税なし。**

➡ 民族間比率の維持――建国前の 1960 年と 2016 年時点でもほぼ同じ比率――

この比率の維持が民族間融和のキーポイントの一つです。独立前の 1964 年に大きな人種暴動を経験したシンガポールは、以降、人種対立を招くような報道、これに繋がる無責任な政府批判報道、イベントなどは一切禁止されています。これがシンガポールには報道の自由に制約があると言われていた所以です。政府はそれだけナーバスな性質の問題だという扱いをしていることとなります。

➡ 言語政策――

民族間比率の維持に加え、公用語を「英語」・「マンダリン（標準北京語）」・「マレー語」・「タミール語」の 4 か国語にし、民族間の公平を図っています。

大事なことは 1973 年各民族に中立な言葉である英語を、「学校での第一言語」にしたことです。これは究極、国際競争力の結びつくことになりました。

➡ 次に住宅政策を見てみましょう――

今や国民の 80%以上がすんでいる公共高層住宅、HDB があります。イギリスの植民地であったときは、同じ人種は同じ地域に住んでいましたが、人種暴動を経験したこともあり、独立後はこれを一切廃して、同一地域に混住させる政策を採りました。これも民族融和策の一つと言えます。

➡ 導いたリーダーたち

この 3 人の方々が建国以来シンガポールをけん引してきたリーダーです。

リー・クアンユー首相、ゴー・チョクトン首相・リー・シェンロン首相です。

➡ リーダーたちを支えてきた国民

こうして 3 人のリーダーによって導かれたシンガポールですが、この間日本には何人の首相がいたのでしょうか。24 人です。多い少ないが「良い・悪い」という訳ではありません。シンガポールや日本にはそれぞれの地政学上の位置や、歴史・文化・時代などの背景があって、こういう姿になっていると考えられるからです。**しかし少なくとも言えることは、シンガポールは優秀なリーダーに恵まれてここまで発展したと言えると思います。**

シンガポールは一党独裁という評価をする人もいますが、決してそうではありません。1965 年の建国以来、このスライドの左の表のように人民行動党の選挙における得票率をご覧ください。圧倒的な支持率です。

シンガポールの発展を支えた要因ということで、実行されたいろいろな政策のお話をしましたが、これだけの支持を得てきたということは、発展を支えてきた最大の要因というのは、実はリーダーたちの政策を支持してきた国民だったと言えるでしょう。リーダーはオーケストラで言えば指揮者、見事な演奏をしたのは国民で、リーダーも偉かったですが、国民も偉かったと私は思います。



第 2606 回例会

《米山梅吉記念館訪問及び親睦旅行》

日時⇒ 平成29年10月20日(金)～21日(土)

第 2607 回例会

日時⇒ 平成29年10月27日(金) 点鐘12:30

卓 話⇒ 『石けん協会が取り組んでいる
ボランティア活動について』

株式会社リベレーション

表取締役 小知和 ゆう 様

<会報当番：石井 慎一>

